

土木学会四国支部「土木紀行」No.49(高知県)

「掩体(えんたい)」

掩体とは、戦争時に敵の攻撃から飛行機を守るための構造物であり、飛行機格納庫である。その中には、鉄筋コンクリート製のもの、竹や木、土で造られたもの、屋根がなく擁壁のみのもなどがあったとされている。

現在、高知県南国市に残っているものはコンクリート製のもの 7 基だけだが、当時はどの掩体にも中央の滑走路からそれぞれの掩体までは東西 3 本、南北 4 本の幅約 40m の誘導路が張り巡らされていた。現在残っている 1 番大きいものは幅 42m、奥行き 22m、高さ 10m(図 1 の 4 号掩体)で、その他の 6 基はほぼ同じ大きさで、幅 22m、奥行き 12m、高さ 5m のドーム状のものである。

コンクリート製の掩体の上部には土が盛られ、さらに芝などを植えてカモフラージュしたことから、上空からは単なる小山のようにしか見えなかったらしい。またコンクリート製掩体は戦闘機の機銃掃射は防げられたが、爆弾の直撃では防御できなかったと言われている。

現在、南国市の掩体は自由に見学することができるが(内部への侵入は禁止)、掩体の周囲は田んぼに囲まれており、道路は県道 31 号線を除いて細く、車で見て回るには少し不便である。しかし、前浜公民館の前(図 1 の黒丸の付近)に駐車できるスペースがあるので、そこに駐車し見学すれば、公民館の前には案内の看板も設置されているので、より快適に見学できると思う。

右に掩体周辺の地図を示す。

南国市教育委員会が前浜公民館の前に設置している看板には「掩体のある光景は、歴史的事実を今に伝えるひとつの記念碑としてどっしりと構え、周囲の風景と奇妙なコントラストを見せ、平和の意味をしっかりと教えている」と書かれており、実際に見学に行ってみると戦争の恐ろしさ、平和なことへの素晴らしさについていろいろ



図 1 掩体周辺地図

考えさせられた。老若男女問わず、是非行ってみたいと思う。特に、最も大

きい 4 号掩体は、その存在感は圧倒的でなにか安心感があった。以下に掩体の写真を示す。



写真 1 1号掩体



写真 2 2号掩体



写真 3 3号掩体



写真 4 4号掩体



写真 5 5号掩体



写真 6 6号掩体



写真 7 7号掩体

このように掩体は形を綺麗に残したまま残っている。しかし、近くに行ってみるとあちこちにひび割れが見られる。

また、天井には「むしろ」と呼ばれるわらなどを編んで作った敷物の跡やセメント袋の跡が付いていて、先人の掩体作りの知恵が見て取れる非常に興味深い構造物であった。

出典：1) 南国市教育委員会生涯学習課資料「掩体は語る」より

(高知高専専攻科 建設専攻 1年 楠目 亮)